

Le temps des deux Salomé

～二つの「サロメ」～

一つのストーリーから生まれた二つのドラマ

〈東京二期会コンチェルタンテ・シリーズ〉

ジュール・マスネ作曲

『エロディアド』

〈新制作／セミ・ステージ形式上演〉

オペラ全4幕／字幕付原語[フランス語]上演

2019年4月27日(土) 28日(日)

Bunkamura オーチャードホール

東京二期会オペラ劇場

《ハンブルク州立歌劇場との共同制作公演》

リヒャルト・シュトラウス作曲

『サロメ』

〈新制作〉

オペラ全1幕／字幕付原語[ドイツ語]上演

2019年6月5日(水) 6日(木) 8日(土) 9日(日)

東京文化会館 大ホール

●公演に関するお問合せ 公益財団法人東京二期会 マーケティング部

TEL:03-3796-1818 FAX:03-3796-4710

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-25-12

●チケットのお問合せ 二期会チケットセンター TEL:03-3796-1831

一つのストーリーから生まれた二つのドラマ～『エロディアード』と『サロメ』

2019年、東京二期会が画期的なプロジェクトを打ち出しました。それが、4月『エロディアード』、6月『サロメ』の公演です。この二つのオペラは、どちらも《サロメ》を題材とした同じ物語から生まれています。

しかし、フランスのマスネによる『エロディアード』と、オスカー・ワイルドの戯曲をオペラ化した、R.シュトラウスによる『サロメ』は、まったく違った趣を持っています。『エロディアード』のサロメは、預言者ジャンの高潔さに惹かれる踊り子で、音楽も稀代のメロディスト、マスネの真骨頂たるロマンティックな音楽が魅力ですが、『サロメ』での彼女は、預言者ヨカナーンに拒まれた結果彼の首を求めるといふ、純潔ゆえの倒錯した欲望をもつ悪魔的な少女。シュトラウスによる極彩色の音楽がかつてない狂気をはらんだドラマを生み出します。

同じ物語を基としながら、二つのまったく異なったドラマ・音楽が展開する『エロディアード』と『サロメ』。見比べることで、多彩なオペラの世界への理解が深まるはず！この絶好の機会をお見逃しなく！！

J.マスネ～エロディアード～ (ギュスターヴ・フロベール『三つの物語』より)

あらずじ一紀元前30年頃のエルサレム。王宮の舞姫サロメは、荒野で出会った美しい預言者ジャンの虜になってしまう。熱烈に愛を語るサロメ。しかし、男女の愛を拒絶し続けるジャンに想いは届かない。

王妃エロディアードは夫エロデがサロメに執心する姿を見て苦悩する。占星術師の予見により、サロメが、かつて自らが捨てた娘であると知るエロディアード。一方、サロメに迫るが、頑なに拒絶されるエロデ。

ある日、エロデは、民衆を扇動した罪で咎められたジャンの命を救おうとするが、サロメの愛する人物がジャンであると知り、嫉妬から死刑を宣告してしまう。

牢獄で死を待つジャンは、サロメへの思いを募らせる。運命を共にすることを願うサロメを振り払い、死刑場へ向かうジャン。サロメは、王妃エロディアードに助命を嘆願するが、すでに時は遅く…。

R.シュトラウス～サロメ～ (オスカー・ワイルド戯曲『サロメ』)

あらずじ一王宮の宴席。義父ヘロデ王の卑猥なまなざしに嫌気がさし、宴席を抜け出すサロメ。すると、井戸の底からヘロデによって幽閉された預言者ヨカナーンの声が聞こえてくる。その声に魅了されたサロメは、衛兵隊長に井戸の蓋を開けるよう命じる。井戸から出てきたヨカナーンは、サロメの誘惑をものともせず、ヘロデと王妃ヘロディアスの近親婚の罪を糾弾し続ける。サロメの欲望は、拒絶されるほどに高まって行く。

サロメを追って宴席からヘロデが出て来る。執拗にサロメに踊りを所望するヘロデ。望むものは何でも与えると誓うヘロデの言葉に、サロメは身にまとった7枚のペールを1枚ずつ脱ぎ捨てながら妖艶に激しく踊るのだった。

舞の後、ヘロデはサロメに何を所望するかと訊ねる。サロメは「銀の皿に盛ったヨカナーンの首」と答えるのだった。

Bunkamura でオペラを楽しむ＜東京二期会コンチェルタンテ・シリーズ＞での『エロディアード』～世界的演出家ヴィリー・デッカーの圧倒的な舞台で贈る『サロメ』

Bunkamura で展開する＜東京二期会コンチェルタンテ・シリーズ＞では、セミ・ステージ形式上演で、映像や照明を駆使したステージングで、ドラマへの理解を深めながら、オペラの楽曲の魅力を存分にお伝えいたします。S席1万円というリーズナブルなチケット料金を実現し、東京・渋谷の芸術の殿堂 Bunkamura で気軽にオペラをお楽しみいただけます。

今回の『エロディアード』では、フランス音楽最高峰のミシェル・ブラッソンが指揮。85歳を迎えた巨匠の薫り高い音楽にどうぞご期待ください。



2018年『サロメ』舞台より



ハンブルク州立歌劇場公演より

『サロメ』は、ハンブルク州立歌劇場との共同制作でお届けします。ドイツを代表する歌劇場の一つで、二期会とは2018年『魔弾の射手』の名演が記憶に新しいところです。演出は、2016年『トリスタンとイゾルデ』にて、美しく洗練された舞台美術と照明で、ワーグナー世界を深遠に描いたことで絶賛されたヴィリー・デッカー。この生々しく煽情的なオペラをどのように表現するのかに期待がかかります。

聴きどころたっぷり！東京二期会のスター歌手たちの饗演にご期待ください！

フランスとドイツの名作にふさわしい東京二期会のスター歌手が揃いました。『エロディアード』タイトルロールには、類まれなドラマティック・ソプラノ板波利加と16年『トリスタンとイゾルデ』イゾルデの名唱の記憶新しい池田香織、そして『サロメ』には、メトロポリタン歌劇場デビュー以来欧州で活躍する世界的ソプラノ森谷真理と圧倒的なスケールと美声の田崎尚美のダブル主演が実現。男性陣も華と実力ある歌手が勢ぞろい！聴きごたえのある二期会歌手陣の饗演に、どうぞご期待ください。



板波利加



池田香織



森谷真理



田崎尚美

東京二期会コンチェルタンテ・シリーズとは？

東京二期会が Bunkamura で展開するセミ・ステージ形式の新オペラ・シリーズ。チャレンジングなレパートリー展開をめざし、オーケストラを取り囲むように設置されたステージで、映像と照明を駆使して上演。ドラマへの理解を深めながら、オペラの楽曲の魅力を存分にお伝えします。第1回は2018年3月、ベッリーニの傑作『ノルマ』をイタリア気鋭のリッカルド・フリッツァの指揮により上演しました。第2回となる今回は、フランス・グランド・オペラの傑作マスネ『エロディアド』をフランス音楽最高峰の指揮者ミシェル・プラッソンを迎えてお贈りします。



2018年
東京二期会コンチェルタンテ・シリーズ
『ノルマ』舞台写真
(Bunkamura オーチャードホール)



☆エロディアド指揮者 Profile☆



指揮 ミシェル・プラッソン Michel Plasseon

1933年生まれ。父はヴァイオリニスト、母はパリ・オペラ・コミックの歌手。パリ国立高等音楽院でピアノと指揮を学ぶ。ブザンソン国際指揮者コンクールに29歳で優勝したことを契機に、名匠シャルル・ミュンシュに勧められ渡米。

65年フランス・メス市歌劇場音楽監督、68年トゥールーズ市立歌劇場音楽監督に就任し、73年より同オーケストラの常任指揮者を兼務。80年には国立のオーケストラへと昇格に導いた。83～2003年までオーケストラの音楽監督に専念した後、名誉指揮者となる。この間にニューヨーク・シティ・オペラでのアメリカ・デビュー、メトロポリタン歌劇場を指揮。客演ではモントリオール交響楽団、オスロ・フィルハーモニー管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、スカラ・フィルハーモニー管弦楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団、国立パリ管弦楽団など。93～99年はドレスデン・フィルの常任指揮者を歴任。

近年では、10年にパリ・オペラ座にて『ウェルテル』（カウフマン主演）を指揮し大成功を収めた。同公演はDVDがリリースされている。11年も同劇場にて再演（アラウニャ主演）を重ねる。また2012年7月オランジュ音楽祭で『トゥーランドット』を、11月ジュネーヴで『サムソンとデリラ』を指揮している。

日本にはNHK交響楽団への客演やトゥールーズ・キャピトル管弦楽団、ドレスデン・フィルと来日しており、とりわけ05年パリ管弦楽団来日公演は好評を博した。

東京二期会／東京フィルのベルリオーズ・プロジェクト2010において、新演出『ファウストの劫罰』および「幻想交響曲」「夏の夜」等の指揮は大きな喝采に包まれた。2013年東京二期会『ホフマン物語』を指揮。

最近では、18年2月ジュネーヴ大歌劇場で『ウェルテル』を指揮。その後もロッテルダム・フィル、スウェーデン放送響に客演し大成功を収めている。

おもにフランス・ロマン派オペラや近代オーケストラ音楽において高い評価を得ており、EMIを中心に膨大な数のレコーディングがある。

フランス音楽を、フランス絵画や文学と同じように重要なものとして紹介することを生涯の強い使命としている。東京二期会には今回で3度目の登場。

☆サロメ指揮者&演出家 Profile ☆

指揮 セバ스티アン・ヴァイグレ Sebastian Weigle



(c) 読響

オペラとシンフォニーの両方で目覚ましい活躍をみせているドイツの実力派指揮者。

1961年ベルリン生まれ。ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でホルン、ピアノ、指揮を学んだ。82年にベルリン州立歌劇場管の首席ホルン奏者となった後、巨匠バレンボイムの勧めで90年代後半から本格的に指揮をはじめた。2003年にフランクフルト歌劇場でR.シュトラウス『影のない女』を振り、ドイツの権威あるオペラ雑誌「オーパンヴェルト」の年間最優秀指揮者に選ばれた。04年から09年までバルセロナのリセウ大劇場の音楽総監督を務め、ベルク『ヴォツェック』やワーグナー『タンホイザー』など数々の名演奏を繰り広げ、評判を呼んだ。07年にはワーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』でバイロイト音楽祭にデビュー。11年まで指揮し、世界的注目を浴びた。

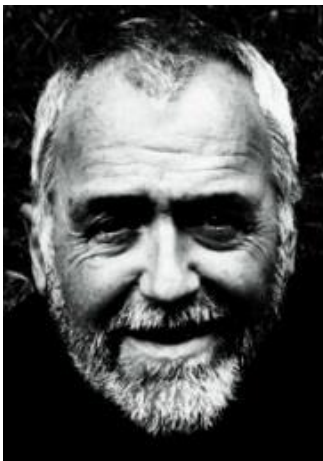
08年からフランクフルト歌劇場の音楽総監督を務め、幅広いレパートリーと充実した音楽で名舞台を数多く作っている。11年に同歌劇場管が「オーパンヴェルト」誌の年間最優秀オーケストラに選ばれ、15年と18年に同歌劇場が年間最優秀歌劇場に輝くなど、その手腕は高く評価されている。

これまで、ウィーン国立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、チューリッヒ歌劇場、メトロポリタン歌劇場などに客演を重ねている。

ベルリン放送響、ウィーン響、フランクフルト放送響などの一流楽団を指揮するほか、ザルツブルク音楽祭など世界の桧舞台で活躍している。特にワーグナーとR.シュトラウスの演奏では定評があり、エームス・クラシックスから多数の録音が出ている。

2017年『ばらの騎士』で東京二期会に初登場。2019年4月、読売日本交響楽団の第10代常任指揮者に就任することが決まっており、今回が就任後最初のオペラ指揮となる。

演出 ヴィリー・デッカー Willy Decker



ケルン音楽大学でヴァイオリンを専攻後、ケルン大学で演劇学、音楽学、ドイツ文学、哲学を修めると同時に、ヨーゼフ・メッテルニヒに声楽を師事。1972年エッセン市立劇場で、その後ケルン市立歌劇場で演出助手となり、ハリー・クプファー、ジャン＝ピエール・ポネルらのアシスタントを務め、86年にはケルン市立歌劇場で演出部長に就任。

2005年秋よりハンス・アイスラー音楽大学教授。09年から11年まではルール・トリエンナーレのインテンダントを務め、11年開幕公演で『トリスタンとイゾルデ』を演出。

78年に演出活動を開始して以来、これまでに演出した劇場には、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、フィレンツェ五月祭音楽祭、ロイヤル・オペラ・ハウス、メトロポリタン歌劇場、リセウ歌劇場等がある。ザルツブルク音楽祭では04年に長年協働してきた舞台装置家ヴォルフガング・グスマンとの『死の都』、05年『椿姫』(アンナ・ネトレブコとロラント・ビリャゾン主演)で大きな成功を収めた。

東京二期会とは2016年ライプツィヒ歌劇場との提携公演『トリスタンとイゾルデ』の演出以来、2度目の協働となる。仏政府よりシュヴァリエ賞他受賞多数。

〈東京二期会コンチェルタンテ・シリーズ〉

エロディアード

《新制作／セミ・ステージ形式上演》
オペラ全4幕 字幕付原語[フランス語]上演

原作：ギュスターヴ・フロベール『三つの物語』
台本：ポール・ミーリエおよびアンリ・グレモン
作曲：ジュール・マスネ

公演日時：2019年4月27日(土) 17:00 28日(日) 14:00

開場は開演の60分前

会場：Bunkamura オーチャードホール

料金：S10,000円 A9,000円 B6,000円【残僅少】 G4,000円【売切】 学生2,000円

※学生席は二期会チケットセンター電話のみの取扱い

※未就学児入場不可

指揮：ミシェル・プラッソン

音楽アシスタント：佐藤正浩 舞台構成：菊池裕美子 映像：栗山聡之 照明：大島祐夫

合唱指揮：大島義彰 舞台監督：幸泉浩司 公演監督：大野徹也

配役

	4月27日(土)	4月28日(日)
ジャン	城 宏憲	渡邊公威
エロデ	小森輝彦	榎 貴志
ファニュエル	妻屋秀和	北川辰彦
ヴィテリウス	小林啓倫	藪内俊弥
大祭司	倉本晋児	水島正樹
寺院内からの声	前川健生	吉田 連
サロメ	高橋絵理	國光ともこ
エロディアード	板波利加	池田香織
パビロニアの娘	金見美佳	徳山奈奈

※やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。

合唱：二期会合唱団

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

主催：公益財団法人東京二期会／Bunkamura

発売日：2018年12月22日(土)

〈チケットご予約・お問合せ〉

チケットスペース 03-3234-9999

二期会チケットセンター 03-3796-1831

〈プレイガイド〉

Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999 (オペレーター対応・10:00～17:30)

オンラインチケット MY Bunkamura

Bunkamura チケットカウンター Bunkamura 1F (10:00～19:00)

東急シアターオーブチケットカウンター 渋谷ヒカリエ 2F (11:00～19:00)

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 137-950) <http://pia.jp/>

ローソンチケット 0570-000-407 (Lコード 33903) <http://l-tike.com/>

イープラス <http://eplus.jp/>

ハンブルク州立歌劇場との共同制作公演

サロメ

《新制作》

オペラ全1幕 字幕付原語[ドイツ語]上演

原作：オスカー・ワイルド
ドイツ語台本：ヘドヴィツヒ・ラッハマン
作曲：リヒャルト・シュトラウス

公演日時：2019年6月5日(水) 18:30 6日(木) 14:00 8日(土) 14:00 9日(日) 14:00
開場は開演の60分前

会場：東京文化会館 大ホール

料金：

- ◆[6月5日(水)・6日(木)公演] 平日スペシャル料金
S15,000円 A13,000円 B10,000円 C8,000円 D6,000円 学生2,000円
- ◆[6月8日(土)・9日(日)公演]
S17,000円 A14,000円 B11,000円 C8,000円 D6,000円 学生2,000円
※学生席は二期会チケットセンター電話のみの取扱い
※未就学児入場不可

指揮：セバスティアン・ヴァイグレ 演出：ヴィリー・デッカー
演出補：シュテファン・ハインリッヒス 舞台美術：ヴォルフガング・グスマン 照明：ハンス・トエルステデ
演出助手：家田 淳 舞台監督：幸泉浩司 公演監督：佐々木典子 公演監督補：牧川修一

配役

6月5日(水)/8日(土) 6月6日(木)/9日(日)

ヘロデ	今尾 滋	片寄純也
ヘロディアス	池田香織	清水華澄
サロメ	森谷真理	田崎尚美
ヨカナーン	大沼 徹	萩原 潤
ナラポート	大槻孝志	西岡慎介
ヘロディアスの小姓	杉山由紀	成田伊美
ユダヤ人 1	大野光彦	升島唯博
ユダヤ人 2	新海康仁	吉田 連
ユダヤ人 3	高柳 圭	伊藤 潤
ユダヤ人 4	加茂下稔	新津耕平
ユダヤ人 5	松井永太郎	加藤宏隆
ナザレ人 1	勝村大城	小林由樹
ナザレ人 2	市川浩平	相山潤平
兵士 1	大川 博	高崎翔平
兵士 2	湯澤直幹	後藤春馬
カッパドキア人	岩田健志	寺西一真

※やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。

管弦楽：読売日本交響楽団

主催：公益財団法人東京二期会 共催：公益財団法人読売日本交響楽団

発売日：2018年12月22日(土)

<チケットご予約・お問合せ>

チケットスペース 03-3234-9999

二期会チケットセンター 03-3796-1831

<プレイガイド>

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 137-951) <http://pia.jp/>

ローソンチケット 0570-000-407 (Lコード 34021) <http://l-tike.com/>

イープラス <http://eplus.jp/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650